

四季の風だより

春号 平成 24 年 4 月 15 日

田中せいこ 社会保険労務士事務所

今日の話題

○作曲者募集 ○本音のホンネ座談会

○山とお茶 参加者募集

○エッセイ「貯め込むねえー」

♪はあるが来たあはあるが来たあ
どこおこい来たあ♪

皆さん、ようやく春らしい暖かい季節となりました！

全ての事が動き出す季節。私も事務所を自宅の隣に引っ越ししました。今までの事務所より更に近くなり、(有)菅原工務店さんと(株)三和木工さんが素敵に改装してくださいのおかげで、とってもオシャレで快適な事務所になりました。看板も(有)パル・ネットワークさんで新調しました。

新事務所開設を記念して、事務所のテーマソングを作りたいと思います。そこで

作曲者募集しま～す♪

歌詞は、事務所の理念を基に、作ってみました。

題「ハーモニー」

1. 私たち一人ひとりが奏でるメロディー
繋げよう響き合おう
一人ひとりのメロディー
手と手をとって共に歩もう
そして生まれる
あなたとのハーモニー
お客様とのハーモニー
社会とのハーモニー
仲間とのハーモニー
2. 私たち一人ひとりの誠意と信頼
繋げよう響き合おう
互いを思いやる気持ち

手と手をとって共に学ぼう
そして生まれる
あなたとのハーモニー
お客様とのハーモニー
社会とのハーモニー
仲間とのハーモニー

どなたか、作曲していただけますか？
テープ、MD、CD何でもいいので録音して送っていただければ嬉しいです。

送っていただいた方には、事務所テーマソングをCDにし、賞品と共に進呈させていただきます。

お申込は4ページめの申し込み用紙をご使用下さい。

山とお茶



ご近所の家で、しだれ梅を見ながらのお茶会があり、美味しいお茶をいただいて来ました。それにしてもみごとな梅です。



着物姿のかくしゃくたる89歳の男性がお

茶会の亭主です。

ほとんど見ることはありませんが、男性の着物姿は本当に素敵ですね。もう少し着物を着る男性が増えてもいいと思うのは、私だけでしょうか。

では、梅見の茶会の一句です。

息詰める 茶せんの音に 梅香る

もう一句です。

散る梅や 昔を語る 茶の亭主

梅が終われば今度は桜ですね。

新城市中宇利 比丘尼城址周辺に植えられた陽光桜です。

ソメイヨシノよりピンクが濃くて、本当に可愛らしい花です。朝早かったせいか、見る人は他に誰もいなくて、鶯の鳴き声と陽光桜を一人占めしちゃいました。

こういうのが本物の贅沢かもしれませんねえ。この景色、タダで見れるなんて、ありがたや、ありがたや・・・



ここには桜の豆知識が書かれた看板がありまして、その看板によると、桜の「サ」というのは、稲を表す古語だそうです。「クラ」は神座をあらわすそうです。「サクラ」は稲

の神が宿るという意味だそうです。

なあるほどねえ～

あっ、もう一つ豆知識の看板がありました。古事記の中の美女コノハサクヤヒメのサクヤがなまってサクラとなっただけです。う～ん、どっちの豆知識が知っているのでしょうか？

事業主本音のホンネ座談会

参加者募集!

社会保険労務士になって、4年たちますが、いつもお客様に教えていただくばかりです。

たとえば、ニュースレターの作り方のポイントや、ためになる本や、ダイエット方法、そして事業主としてのあるべき姿。

事業主の皆さんとお話しさせていただくことが、私にとって一番の学びなのです。

「事業主本音の座談会」は、なかなか人に言えない現実を本音で語り合う会です。

今回は、焼きそばを炒めながら、私と一対一で語り合ってください。ストレス解消の場にしていただいても良いですし、社労士として、法的に役立つアドバイスができるかもしれません。

申込方法：最後のページに申込用紙がありますので、FAXまたはメールでお申し込み下さい。

日時：毎週土曜日18時30分から
申込用紙にあなたのご希望の土曜日をご記入下さい。折り返しこちらからご連絡させていただきます。

会費：500円（焼きそば代含む）



ファンタジックエッセイ

お客様の設備会社社長夫人が書かれたエッセイですが、とても面白いので是非ニュースレターに掲載させて下さいとお願いしたところ、快諾をいただきました。

笑いあり、ファンタジーありの元気が出るエッセイです。

貯めこむねえー

「貯めこむねえー あんた相当貯めこんだらアー」

貯めこむねえーは、今は亡きお姑さんが何十年ぶりに昔の知り合いに出くわした時の挨拶だった。

お姑さんは、ポオポオに跳ね上がった髪を手で撫で付けながら、うらやましそうに、ちょっぴりねたみもきかしたような口調で探りを入れて言っていた。

「そんなことないよォ、あんたこそ貯めこんだらアー」

二人はでかい声で貯めこむ、貯めこまないを言っていたが、なぜか今、遠くなってしまった昭和の時代がとても懐かしい。私もだんだん、あの頃のお姑さんの年に近づいて来た。

世の中はすっかり不景気のニュースで大きな会社も全滅。あっちこっちで工場の閉鎖が始まった。雇用の場も無くなり、正社員さえ首切りされるという現実である。

社長は来る人来る人に「今は何の商売やってもだめだねえ。みんなどうやってやっているんだろうね、わしは不思議でたまらんよー」とか「これからも、こんな不景気がずっと続くかと思うと不安でたまらんよ。ほんと、なんともならんわー、どうにもならんわー」と嘆きの連発である。

社長が取り締まっている極小零細企業には、一握りの従業員と天然ボケの60過ぎの経理担当者のペラペラ女が常時待機している。あと、優秀なパートさん2名が時々顔を出しているけど、能力がいまだに発揮されていないという現実である。

ここん所めっきり仕事が減って、落ち込んだ社長のなで肩は、まるで右へ左へと、糸で操られている奴タコのような。ぶ厚かった耳たぶも、すっかり貧相になってきた。

そうだ！行動を起こそう！！

何かの週刊誌に21世紀は月の時代と書いてあった。思い出した。私は今夜、月の砂漠へ行くことにした。

月の砂漠の王子様とお姫様にメールした。早速、月の砂漠で金のかめと銀のかめをゲットし、すぐに自慢のいかり肩でさっそうと砂漠を飛び立ち、地上に舞い降りた。

サアー貯めこむぞ。この金のかめと銀のかめにザックリ貯めこんで、カネのうなる声を一度聞いてみたいと言っていた豊橋方面の知的なAさんに是非聞かせてあげよう。そして「貯めこむねえー、相当貯めこんだらアー」と言ってもらいたい。

だけど知的なAさんは、いつものようにアハハアハハと笑っているだけなんだろうか。

それとも「貯めこむねえー相当貯めこんだらアー」と言うのだろうか。

